

市役所女子職員の悲劇 ～ 恥辱の窓口研修編 ～

1 新法施行

「多様性」という言葉自体が、既に古いと言われる時代になっているのかもしれない。

昔なら、社会人になると、多少のパワハラは日常茶飯事とも言われたし、管理職のオヤジどもが若いOLにセクハラ発言をすることもしばしばであったという。

一方、令和の現代。

近年はコロナ禍という大きな社会変化も手伝って、職場でも「呑みニケーション」の場が少なくなる中、**新社会人は、昔でいうところの「社会に入った洗礼」というものを受ける機会が減り、**学生気分が抜けないまま、甘い気持ちで日々の仕事に当たる者も少なくないようだ。

また、厳しいしつけをされたり、キツく叱られたりといったことをスルーして大人になった者も多いためか、全体的に、**若年層の社会人はストレス耐性が弱い傾向にある**との研究結果もある。

そんな中、世の中には**公務員**という仕事がある。

公務員は「**社会全体の奉仕者**」であり、常に、一部の人のためではなく**社会全体の利益のために、その身を捧げなければならない仕事**である。

昔は、公務員といえば「楽で安定した職業」というイメージだったが、今は、何かと風当たりが強い。社会全体の奉仕者であるが故に、ある意味で「客を選べない商売」でもあり、一切カネにならない客からのクレームを長時間受けることもよくある話だ。

ストレス耐性の弱い人間ならば、「こんなカネにならない仕事やってられない」と、すぐに投げ出してしまってもおかしくない仕事、それが公務員だ。

だからこそ、**公務員には、自身が社会全体の奉仕者であるという自覚が必要不可欠**である。その自覚があるからこそ、**理不尽と思えることでも、社会の利益のために遂行できる**のだ。

昨今、その自覚を持たずして公務員を志望する者が増えているのも事実であり、不祥事で信用を失墜させる者もしばしばとなっている。公務員のモラル低下が、ひいては社会全体の規範意識の薄れを招いているとも言われるようになった。

これらの状況を受け、ついに国が動いた。

この春より、公務員の就業に関する厳しい規律を定めるための「公務員就業規則厳格化法制」が整備されたのである。また、それに伴い、各地方公共団体においても、これに準拠した就業規則条例が制定されることとなった。

条例は4月1日付で施行され、新年度から早速、これに沿った住民サービスの提供が行われることとなった。特に、**市区町村の役所で住民サービスを提供するいわゆる「窓口部門」で働く職員に対しては、より良い住民サービスのためとして、非常に多くのことが求められることとなった。**また、それにあたり、事前に**厳しい「研修」も課されることとなった**のだった。

2 年度はじめの訓示

市役所では毎年度のはじめ、つまり4月1日に「年度はじめの訓示」が行われるのが通例である。役所の大会議室などに職員が集められ、市長が、年度はじめにあたっての言葉を述べるというのが一般的だ。

2年前に市役所に入庁し、介護課保険料係に配属されてこの春3年目を迎えた女性職員 川上紗良は、今年初めて、年度はじめの訓示に参加することとなった。

というのも、従来の訓示は、市役所の開庁時間中、つまり営業中に行われており、窓口部門では皆で参加するわけにもいかず、管理職など数人が代表して参加するのが通例だったからだ。

それが今年は、4月1日の早朝6時から訓示が行われることとなり、さらに、**窓口部門で働く女性職員は必ず参加するよう**にとの業務命令が出ていた。

そして、訓示の後、市役所が開く午前8時30分までの間に、各窓口部門において、**管理職による研修が行われ**、新たな条例に基づく住民サービスについて指導がなされるとのことだった。

紗良の部署には、もう一人の女性職員が居た。3年先輩の **森野弥生** である。

さらに、この日から、新採用の女性職員 **島崎梨花** も配属されることとなっていた。新採用の職員にも、この訓示と研修のことはもちろん事前に通達されており、紗良や弥生も、この訓示の場で初めて新人である梨花と顔を合わせる事となる。

(新人、どんな子だろうな・・・いきなり厳しい指導になりそうだから、可哀想だな・・・)

そんなことを考えながら、4月1日の早朝、紗良はスーツを身に付けて出勤した。

午前5時50分、市役所の大会議室に入った紗良は、辺りを見回すとすぐに直属の係長である **神崎** を見つけた。その隣には、先輩の森野弥生と、さらにもう一人、初めて見る顔の女性がいた。おそらく、この子が新人の島崎梨花だろう。

「係長、おはようございます！」 紗良は元気に挨拶した。

「おう、おはようっすー」 神崎はまだ眠そうな目をしている。

「係長、もしかして・・・新人さんですか？」 紗良が初顔の女性に目を向けて尋ねた。

「あ、そうそう、今日から仲間になる島崎さんです。宜しくね。挨拶しよっか。」

「島崎梨花と申します。宜しくお願いします！」

「3年目の川上紗良です。よろしく！」 愛嬌のある可愛い子だなと、紗良は思った。

訓示では、最前列に市の幹部職員たちが並び、あとは役職が上の者から順に前から並んでいく。若手係員である紗良は、弥生、梨花とともに最後列の方に並び、開始を待った。

(本編へ続く)